

平成二十七年十二月第七回人吉市議会定例会の開催に当たり、市政に対する所信の一端を申し述べる機会を与えていただきましたことに、心から厚く御礼を申し上げます。

去る十一月十一日水曜日、秋晴れの中、MRJ（三菱リージョナルジェット）がエンジン音を響かせて愛知県名古屋空港に着陸し滑走路に停止すると、詰めかけた約三百五十人の関係者から歓声が上がったという初飛行に成功した半世紀ぶりの国産旅客機のニュースが日本中を駆け巡りました。日本の誇るモノづくりの新たな幕開けを告げる輝かしい話題でもあり、日本初のパイロットで郷土の偉人、日野熊蔵翁が百年前に描いた大いなる夢や希望と重なる部分を深く感じたところでございました。

一方、遠く離れた熊本県立美術館では、同じ天高き秋空のもと、「ほとけの里と相良の名宝」と銘打った展覧会が十月十四日から十一月二十九日の期間で開催されました。人吉球磨の歴史と文化を紹介する初めての展覧会であり、会場には、在来の領主が育んだ平安仏から相良氏ゆかりの都風の仏像、相良三十三観音まで、多彩な仏教美術作品が一堂に展示され、改めて人吉球磨地域の文化や精神性の奥深さといったものを再認識するすばらしい機会を与えていただきました。

また、十月三十一日から十一月一日にかけて、三重県で開催されました第二十三回全国高等学校ロボット競技大会では、都道府県代表百二十八校の中で地元の球磨工業高校が三度目の準優勝に輝いたという朗報も届いております。

国家的な出来事と地方の話題という違いはあるものの、時期を同じくした三つの出来事に、今後の日本と人吉市においてモノづくりにかける人々の想いが産業経済をけん引し、日本が誇れる伝統、歴史文化両面で本当の豊かさを享受できる社会を必ずや実現するであろうという予感と、未来に対する明るい兆しを見る思いがいたしました。

熊本県では、本年六月一日から十五日まで無作為抽出による県内在住の二十歳以上の男女三千五百人に対し、蒲島県政の基本理念である県民総幸福量を算出するための県民の幸福に関する意識調査が実施され、その調査結果が発表されました。

この調査は、平成二十四年度から実施されておりました、直感的な幸福度と四つの分類による重要度と、十二の項目による満足度が問われたもので、当然、回答者の地域をもとに県内居住地域による属性というクロス集計も行われており、今回、回収率四七・八パーセント、一千六百七十二の回答が寄せられています。

調査結果を見ますと、県全体では七三・五パーセントの方が直観的な幸福度を感じている、やや感じていると答え、前年度を少し上回る結果となっておりますが、重要度と満足度から導かれる県民総幸福量については、人吉球磨は県平均を上回る結果となっております、特に、夢を持っているという項目と、誇りがあるという項目では、高い値を示しているようでございます。

この結果が、本年四月に人吉球磨地域が日本遺産に認定されたことを反映しているものかどうかは図り知ることができませんが、過去と未来が良い形で人々の心の中で温められ、育まれているのではないかと推察しているところがございます。今後、このような県民総幸福量の結果ももちろんでございますが、日常生活や故郷への振り返りの中で幸せを

実感することができるようなまちを築いてまいりたいと、私自身も気持ちを新たにしたいところでございます。

一方、国の動きでございますが、今後の産業、経済、国民生活に大きく影響をしてまいります環太平洋戦略的経済連携協定いわゆるTPPの十二箇国交渉において、大筋合意に至ったという発表が大きく報道をされました。貿易自由化は世界の潮流として受け止めながらも、農業を基幹産業として位置付けている本地域にとつて、TPPの影響等、その対策について未確定な部分が多く、TPPのメリット、デメリットを総括しましたときに、なかなか全てを理解するということには現段階では至らず、懸念をしているという状況にございます。しかしながら、政府が編成する新年度予算についてもTPP協定発効に備えた事業等が盛り込まれるようであり、今後の国、県の動きや対応も的確に捉えながら様々な影響等に適切に対応できるよう情報収集等に努めてまいりたいと存じます。

ひとよし未来会議でございますが、去る十月二十七日「健康福祉施策から十年後の人吉を考える」を第一回として、これまで四回開催いたしました。今回は、人吉の近未来を語り合うという形で開催しております、このほかにも「子供たちが大人になり、生き生きと生きていくために、私たちに今何ができるだろう?」、「十年後『稼げる人吉』になるために、私たちが今やるべきことは何だろう?」というテーマを設定して、それぞれの関係者、有志の皆様にご参加いただき、夕刻から約二時間にわたり実施しております。

会議では、市職員も含め三十人を超える皆様方にそれぞれのテーマで未来像を語り合っていたっており、自己紹介からグループ発表、感想を含むクロージングまで、時間を感ぜさせない充実した話し合いだったという参加者の皆様の声をいただいております。まだ歩き出したばかりの未来会議でございますが、私自身も席を並べ参加する中で、行政、関係者の方々、そして市民の皆様が本市の課題や目標を確認し、共有する初動の会議から、テーマに沿って、官民協働といった実働につながるような企画会議まで幅広く活用できる会議としての手応えを感じたところでございます。

現在、策定作業を進めております第五次人吉市総合計画後期基本計画でございますが、二十四人の市民有識者からなる「人吉市総合計画策定審議会」を設置し、去る十月十三日後期基本計画策定につきまして諮問をいたしました。諮問するに当たりまして、総合計画の全体像として、まちづくりの理念や目指すべき将来都市像といった基本構想部分は継続することや、後期基本計画の中には一〇八の事業を具体的な施策あるいは理念等として反映していること、さらには人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の進め方と上位計画である総合計画との関連性などにつきまして御説明いたしました。

審議におきましては、「都市基盤・産業部会」、「教育文化・行政部会」、「福祉健康・環境安全部会」と三つの分野別に進めることとされ、現在、審議の過程で貴重な御意見や御提言を賜っているところでございます。今後は、さらに市民の方々の御意見を反映できるようパブリックコメントを実施し、意見の集約に努め、来年一月中には答申をいただくことといたしております。

市庁舎移転建設関係でございますが、市議会におかれましては九月定例会最終日に「市

庁舎建設に関する特別委員会」を設置いただきましたことに心から感謝を申し上げます。四月の選挙期間中を含め市長就任後、新市庁舎建設問題について見直し再考を表明したことで、新たな局面を迎える結果になりました。そのことにより市民の皆様を始め関係者の方々に御心痛や御心配をおかけしたことも事実であり、私自身このことを真摯に受け止めながら、今日まで現時点での最善策について熟慮を重ねてまいりましたことを御理解いただきたいと存じます。

私が選挙戦で訴えました人吉市カルチャーパレスを始め既存施設の活用案につきましては、建設に向けて既に前提条件としてクリアすべき課題、ハードルの高さなどを掌握する中で、一定の問題提起には繋がったものの、代替案としての精度に欠けていたことも事実でございます。従いまして、就任来、改めまして新市庁舎移転建設基本構想の経緯及び特別議決の重みを再確認し、そして、何よりも市庁舎建設最大の課題である総事業費の抑制といったものを中心に据えて議論を進めてきたところでもございます。

今回お示しをする、新市庁舎建設に関する方針については、総務部による「市庁舎建設に関する再検討作業部会」の検証結果を、副市長を会長とする部局横断による「市庁舎移転建設研究委員会」を経て、組織的決定をしたところでございます。検証の結果でございますが、新市庁舎につきましては、基本構想どおり市役所別館に集積するところで建設、ただし、総事業費、新市庁舎の位置・面積につきましては可能な限り現行計画案を圧縮、さらには周辺の公共施設を有効利用するとしておりまして、先日、市庁舎建設に関する特別委員会へ説明を申し上げたところでございます。結果的には、終始尊重をしております。理想的な基本構想で示されていた整備パターンの改良形とも言えるものでございます。理想形である総合型庁舎ではございませんが、基本構想に近づけるように、機能面、施設規模、内容、年次計画等について工夫をしまいたいと存じます。

また、今後、設置をお願いしております人吉市庁舎等移転建設審議会におきまして、様々な視点や幅広い見地での御意見、御指摘、御審議を賜ることといたしております。移転建設に向けて総事業費の抑制などの課題を一つずつ解決すべく議論を重ねてまいりたいと存じますので、議員各位、さらには市民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。次第でございます。

球磨川流域の治水関係でございますが、去る十一月九日、第三回球磨川治水対策協議会が開催されております。会議では、前回の協議会において治水安全度を高める対策として示された九つの対策案のうち、川の断面積を大きくする引堤、河道掘削等、堤防強化の三つの対策案について説明を受け、意見交換が行われたところでございます。

球磨川治水対策協議会におかれましては、引き続き国、県、流域市町村が議論を重ね、共通認識を深めながら、新たな知見も付加した治水対策が検討されますことを期待するとともに、本市といたしましても球磨川を始めとする河川の治水安全度や地域防災力が高まるよう最大限の努力をしまいたいと存じます。

行政改革関係でございますが、平成二十五年度から実施しております第五次人吉市行政改革大綱につきましては、「市民と行政との協働」、「感動される市政の推進」、「持続可能な

財政運営」の三つを重点項目として位置付け、二十三の取組項目について、職員一丸となって改革を推進しております。また、現在策定を進めている第五次人吉市総合計画後期基本計画に合わせ、行政改革の進捗状況について検証を行い、今後四箇年の取組につきまして協議を進めているところでございます。本市におきましても、財政状況が厳しさを増す中、また限られた職員数の中で市民ニーズに応える行政運営を進めていくためにも行政改革に取り組み、職員自ら改革改善していく自律的・主体的意識の確立と、PDCAサイクルに基づく行財政運営に努めてまいりたいと存じます。

まち・ひと・しごと創生総合戦略関係でございますが、八人の有識者からなる「人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」におきまして、四回にわたり慎重に御審議をいただき、去る十月二十三日、「人吉市人口ビジョン」及び「人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきまして答申をいただきました。

答申の中では、総合戦略の着実な推進をという御意見もいただいております。現在策定中の第五次人吉市総合計画後期基本計画におきまして事業推進体制を構築しているところでもございます。これから本市が目指すべき将来の方向と展望に向け、特性や強み、地域資源を活かした具体的な施策を講じ、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力を維持していくための、「人吉版地方創生」を強力に推し進めてまいりたいと存じます。

また、地方版総合戦略の策定により、国が示しております地方創生先行型上乘せ交付金について交付決定を受けておりまして、事業を実施することといたしております。

実施します事業は、G空間と近未来技術を活用したスマート林業構築事業でございます。本市では、平成二十六年度から地理空間情報いわゆるG空間情報を活用し防災や林業の調査研究に取り組んでまいりました。今回は、更に発展した形で、国内において成長産業として期待される林業にG空間情報技術を取り入れることで、稼げる林業と地方での就業を目指す若者等への雇用の場と機会を創出する「スマート林業」を確立するため、林業の現状分析や、国内外視察調査及び普及啓発等の事業を展開してまいりたいと存じます。また、人吉球磨の日本遺産ストーリーを全国に発信するための情報発信事業や、ムスリムとの交流やセミナー等の開催を主軸としたムスリムインバウンドおもてなし事業も併せて展開してまいりたいと存じます。

人吉市総合戦略に掲げているしごとの創生に関し、地域の農林水産資源、観光資源を活用した新たな地域産業の充実強化として、ハラル関連事業を進めているところでございますが、更なる事業推進のため、十一月十二日に、市関係部局からなる「人吉市地域再生計画モデルケース推進協議会」を設置いたしております。

今後、民間事業所等の関係団体に参画いただき、地域全体の活性化を推進する官民一体となった協議の場として、仮称ではございますが、「人吉球磨の畜産業を始めとした地域産業の将来を検討する協議会」を本年中に設立し、国、県の御協力を仰ぎながら、ハラルなどの地域資源を活用した事業を推進してまいりたいと存じます。

くま川鉄道関係でございますが、九月から空席になっておりましたくま川鉄道株式会社取締役社長に永江友二氏が就任されました。新社長のもと、新たな体制が整ったというこ

とで、安全、安心な運行はもろんのこと厳しい経営状況を打開する取組につきましても、期待をしているところでございます。地域交通体系の一翼を担う鉄道として少子化や高校再編等への対応など課題も山積みでございますが、本市としましても利用客増加の取組など、これまで以上に沿線町村と連携し、利用促進に努めてまいりたいと存じます。

社会保障・税番号制度、通称マイナンバー制度関係でございますが、先月中旬以降に順次、通知カードを市内全世帯へ送付したところでございます。この制度は、「公平・公正な社会の実現」、「国民の利便性の向上」、「行政の効率化」に資するものとして、平成二十八年一月から社会保障と税、災害対策の分野で利用が開始されます。本市におきましても、法律や条例で定められた事務につきまして、その運用を開始することから、市民の皆様は市役所での各種手続きの際、個人番号を記載いただくこととなります。そのことにより、手続きの簡素化による負担軽減や行政サービスの適正受給につながるなど、皆様にとりましても利便性が高まるものと存じておりまして、円滑な制度運営に御協力をお願い申し上げます。

また、制度運用開始に際し、市民の皆様には様々な御不安があることも承知しているところであり、個人情報漏えいや個人番号の目的外使用などにつきましては、細心の注意を払いながらシステムの構築や運用管理に努めてまいり所存でございます。

環境関係でございますが、平成二十六年九月に環境基本計画を策定し、「自然環境と人間生活が共に輝く美しき千年都市ひとよし」を目指す環境像として、市と市民の皆様及び事業者の方々が連携し、それぞれの課題に取り組んでまいりました。

本市におきましても、その課題を百五十五の事業に分け、昨年十月から実施しております。平成二十六年度は、半年間の実績ではありますが、既に実施しているものが百二十一事業あり、終了したものが一事業となっております。また、市と市民、事業者の協働の取組につきましては、「みんなで美しい人吉づくり」、「ごみ減量大作戦」、「環境を身近に」の三つを重点プロジェクトに掲げ、環境美化、ごみ減量、環境教育など実効性が高い項目について、それぞれの役割に合った取組を展開しているところでございます。

本市の誇りでもある自然と歴史豊かな環境を維持し次の世代に継承していくためには、市と市民、事業者の協働は不可欠であり、市の役割として全庁的に環境施策を推進するとともに、市民や事業者の活動が地域の力として広がるよう支援してまいりたいと存じます。

健康増進関係でございますが、去る十一月十六日、新たに二つの企業・団体との間で、笑顔と健康のまちづくり協定を締結いたしました。この協定は、市民の皆様が「自らの健康は自らで守る」という意識を高め、健診による健康状態の把握、運動や食生活等の生活習慣改善に取り組み、人生を楽しく笑顔で過ごせることを目的として、平成二十五年から推進しているものでございます。取組の内容でございますが、本市は締結に基づき健康づくりに関する情報提供を行い、企業・団体においては、構成員や従業員の皆様に市民健診の受診勧奨や健康づくりに関する啓発活動を実施していただくものでございます。

今後さらには地域や企業、団体の皆様とともに健康増進の普及啓発活動に取り組み、市民健診の受診率向上、健康寿命の延伸に努めてまいり所存でございます。

農業関係でございますが、去る十一月七日、八日の両日、ふるさと歴史の広場において、第六十六回ひとよし産業祭が開催されました。本年は例年になく夏日を思わせるほどの好天の中での開催となり、市内外から多くのお客様に御来場いただき、御礼を申し上げます。また、本年も本市の友好都市である静岡県牧之原市から、商工会会長、商工会職員、市職員の方々にお越しいただき、お茶や海産物などの特産品の販売を行っていただいております。本市との交流に努めていただいております。

地域再生計画関連でございますが、現在、本計画に掲げております三つの構想の一つである、食肉加工センターを基幹施設とするハラルセントラルキッチン形成と周辺環境整備に向け、人吉中核工業用地の造成を実施しているところでございます。今回、本構想を進めるに当たり、国内外の市場調査や輸出条件等の調査による数値化されたデータ分析に基づく事業計画とすべく、平成二十四年度、二十五年度に実施しましたハラルサーブスの形態を中心とした調査結果をベースに、食肉加工業や関連企業が成り立つための牛の必要生産量、食肉加工センターの処理能力などに関するシミュレーション調査業務委託を予定しております。この調査の結果をもとに検討、分析を進め、本構想の事業計画策定と関連企業立地の早期実現に努めてまいりたいと存じます。

商工関係でございますが、去る十月十八日、「人吉ふれあい百円商店街」が、九日町、紺屋町、鍛冶屋町など中心市街地一帯で開催されました。この事業は、きじ馬スタンプ会が中心となり地元町内会や商店街振興組合と開催しているもので、平成二十四年度から実施し、今回で十二回目の開催となります。当日は、会場内で「とっておきの音楽祭 in ひとよし」や「第十二回ウンスンカルタ大会」も開催されており、晴天の中、多くのお客様が会場一帯を散策し、思い思いに買い物を楽しんでおられました。

また、実りの秋、文化の秋ということで、この他にも青井トキめき通り、青井阿蘇神社表参道、岩屋熊野座神社やJR人吉駅など人吉の「まち」や名所を舞台にした、様々なイベントが開催されております。

本市としましても、地域の方々と連携を図りながら、自主的な振興策や活動を支援し、引き続き街中の賑わい創出などの活性化を推進してまいりたいと存じます。

観光振興関係でございますが、九州運輸局は、先日、本年一月から九月にかけて九州の空港や港から入国した外国人数が百九十一万八千五百三十四人に上り、これまで年間最高だった昨年の百六十七万五千二百三十一人を既に上回ったと発表をいたしました。要因として、円安に加えクルーズ船やアジア各地との国際線の増加が追い風になったという分析をされており、今後も九州全体として外国人旅行者の増加が見込まれることから、本市としましても、広域的な連携による周遊滞在型観光に取り組むなど、その対策に努めてまいります。

国土交通省のビジットジャパン地域連携事業を活用した「南九州トライアングル連携事業」につきましては、昨年に引き続き、えびの市と霧島市及び本市との間でネットワーク事業を実施しております。本年度は、熊本―高雄間の定期便就航などを背景に、台湾の個

人旅行者層に広く支持されているブロガー、いわゆる人気ブログの提供者を招請し、個人旅行者向けの体験コンテンツやグルメといった観光素材情報を発信し、南九州への関心を高めることで、台湾からの観光客誘致を図ることとしております。

土木関係でございますが、平成二十六年九月から球磨川に架かる水ノ手橋の補修工事を進めてまいりましたが、去る十月二十六日にしゅん工いたしました。今回の工事では、長寿命化の対策のほか、車道舗装、景観に配慮した歩道、高欄の補修を実施しております、車両等の円滑な運行に寄与するものと存じております。

今後の事業としましては、引き続き橋梁長寿命化修繕計画に基づき実施することとしておりまして、国の「大規模修繕・更新補助制度」を活用し、球磨川に架かる曙橋の耐震補強詳細調査及び耐震補強設計を実施いたします。また、その他の橋梁につきましても、近接目視点検調査などを行い、その結果を踏まえながら、補修工事を計画してまいりたいと存じます。

都市計画関係でございますが、本年三月に完成しました鍛冶屋町公園展示室、愛称「世界一小さな美術館 Chobit」につきましては、開館に向け準備を進めてまいりましたが、今月十二日にオープンする運びとなりました。当日は、オープニングセレモニーのほか開館記念として、人吉美術協会に御協力いただき、人吉美術協会絵画部門展の開催を計画いたしております。市民の皆様におかれましても、是非御来館いただき、作品を鑑賞いただきたいと思います。

展示室 Chobit につきましては、今後、絵画、写真、書道など様々な文化活動を行うっておられる方々の作品の展示、発表の場として活用するほか、公園全体としまして、近隣住民の方々を始め市民の方々や鍛冶屋町通りを訪れる観光客の皆様には、親しみを持って御利用いただけるよう運営管理に努めてまいります。市民の皆様におかれましても、公園での休憩や展示作品の鑑賞はもちろんのこと、様々な地域のイベント会場として御利用いただき、人が集い心が潤う空間として、御活用いただきたいと思います。

学校給食費の段階的な保護者負担の軽減策でございますが、これまで庁内において公的支援の在り方について、検証を行ってまいりました。検証の中での最大の論点は、学校給食費に対する公的支援の必要性でありまして、今後本市が目指すまちづくりの方向性や施策との整合性などあらゆる視点から議論を重ね、その結果、次の四点を導き出しました。

一つ目は、第五次人吉総合計画後期基本計画における子育て支援の充実、二つ目は、まち・ひと・しごと創生総合戦略のビジョンにおける若い世代の結婚・出産・子育てへの支援、三つ目が地方人口ビジョンの本市の将来予測に使用する合計特殊出生率二・一の実現、四つ目は、国の少子化対策の一環である子育て世代の負担感軽減との整合性でございます。今後の本市の目指すまちづくりの実現に向けた施策として、学校給食費に対する公的支援の方向性を見出したところでございます。

今後は、平成二十八年度からの実施に向け、具体的な支援策の制度設計を行ってまいりたいと存じます。

小・中学校における虫歯予防の取組についてでございますが、昨年度から、各学校にお

いて希望する児童・生徒を対象に「虫歯予防うがい」を実施しており、本格実施から間もなく一年が経過しようとしております。本年度の希望者数は、二学期開始時点で小学生が一千六百三十五人、中学生が七百十三人、合計二千三百四十八人となっております。全児童生徒数に対する割合で申し上げますと、小学生が九二・八パーセント、中学生が七六・二パーセントで、小中学校全体では八七・〇パーセントとなっております。昨年度のスタート時より四パーセント増加している状況でございます。これまで事故や被害の報告はあっておりませんが、各学校及び歯科医師会、学校薬剤師の皆様など関係機関の御協力のもと、引き続き安全面に注意を払いながら、今後もより多くの児童・生徒が健康な歯を維持できるよう、サポートしてまいりたいと存じております。

社会教育関係でございますが、四年目を迎えました「ひとよし花まる学園大学」につきまして、十月二十四日から十一月二十八日までの期間、二講座をそれぞれ六回、人吉高校の生徒を対象とした十代未来塾を一回開催したところでございます。

今回は、日本遺産の認定を記念し、「とことん歴史学人吉球磨の魅力発見」と題しまして、熊本県立美術館で開催されました「ほとけの里と相良の名宝」特別展の鑑賞や、日本遺産の構成文化財を巡る講座を新設し実施しております。受講生の皆様からは、大変御好評をいただき、地域に受け継がれてきた歴史と宝の魅力をじかに感じたことで、改めて郷土への誇りと愛着を確かなものにしていただいたものと存じます。

今後、市民の皆様の学びの意欲に応えらるるとともに、知識と教養を深めていただくことで、地域の活力となる人材育成につなげてまいりたいと存じます。

文化財関係でございますが、人吉城歴史館の特別展「再検証！発掘された謎の地下空間」も残すところ今月十三日までの開催となりました。今回の特別展は、相良清兵衛屋敷跡に人吉城歴史館が開館して十周年となることから、発掘調査で発見された出土品や関連資料を一堂に展示し、郷土の歴史に関心を高めていただくことを目的としておりまして、連日、多くの方々に見学をしていただいております。また、期間中には、発掘により出土した陶磁器について陶磁器研究の第一人者の方による講演会を開催いたしました。参加された方々は、四百年前の陶磁器に秘められた歴史ロマンに興味深く聞き入っておられました。

文化振興関係でございますが、芸術の秋を彩る第六十二回人吉球磨総合美展を、十月十七日から二十二日までの期間、人吉スポーツパレスにおいて開催いたしました。本年は、人吉美術協会を始め関係者の方々の御尽力により、一般の出品者、出品数ともに昨年に比べ増加しており、一般出品者の方にとりましては、入選並びに展示は狭き門となりました。皆様の創作意欲を促し発表する機会として更なる評価をいただけたものと存じます。開催期間中は、入選作品のほか招待作家、審査員、また今回も地元の高専学校の生徒の作品を含め、総数二五六点を展示いたしました。一千六百五十人の来場者に御鑑賞いただきました。

第六十九回犬童球溪顕彰音楽祭につきましては、十一月六日に人吉市カルチャーパレス敷地内の犬童球溪先生の銅像前で碑前祭を行い、その後大ホールにおいて、学校発表会を開催いたしました。学校発表会では、十一月三日の個人コンクールで球溪賞を受賞した地



元の中学生の演奏や、人吉球磨の小学校二十四校、中学校十校、高校二校から一千四百人を超える児童生徒がステージに立ち、素晴らしい演奏や合唱を披露してくれました。また、音楽祭関連事業のフィナーレとして十一月八日に開催した音楽のひろばには、運営にも御協力いただいている地元の合唱団の方々に加え、中原小学校と第三中学校の児童・生徒にも参加していただきました。音楽を通じて子供から大人まで世代を超えての開催となった今回は、音楽祭のテーマにも掲げたように、来年七十回を迎える歴史と伝統にふさわしい「絆」をつなぐ音楽祭になったものと存じます。これからも市民の皆様や関係者の方々と一体となって、曲を奏で歌い継ぐことで、犬童球溪先生の偉功の継承に努めてまいる所存でございます。

図書館関係でございますが、去る十一月十四日、十五日に開催しました図書館まつりでは、幼児を対象とした読書感想画コンクール作品展示並びに表彰式のほか、人形劇やマジックショーなど様々なイベントを実施し、市内外から多くの皆様に楽しんでいただきました。また、人吉球磨の日本遺産ストーリーを構成する文化財群の写真や、地域の歴史に係る資料を展示したコーナーを設置し、大人はもちろん子供たちにも地域の魅力に触れてもらう機会を創出できたことと存じます。

今後も、郷土に係る資料の充実と発表の機会を設け、地域のすばらしさを発信しますとともに、幅広い年齢層まで楽しめるイベントを実施することで、図書館に親しんでいただき、読書のすばらしさをアピールしてまいる所存でございます。

次に、平成二十八年度予算編成に向け、その方針を定めましたので御報告申し上げます。国は、平成二十八年度予算の概算要求において、「経済財政運営と改革の基本方針二〇一五」で示した「経済・財政再生計画」をもとに本格的な歳出改革に取り組むことを重点項目に掲げ、平成二十五年度から進めている歳出改革を更に強化するとともに、デフレから脱却し中長期的に持続する経済成長を実現するため、経済の好循環の拡大、潜在的な成長力強化、まち・ひと・しごとの創生、さらに、公共サービスの無駄排除・質向上等の改革に重点をあてた予算編成に取り組むことなど、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するよう進めるとしております。

一方で、地方財政については、地方の一般財源総額を平成二十七年地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保するとしているものの、別枠加算や歳出特別枠といったリーマンショック後の歳入・歳出両面の特別措置について、経済再生に合わせ、危機対応モードから平時モードへの切替えを進めていくこととしております。

本市においては、これまで数次にわたり行財政改革に取り組み、分権時代にふさわしい行政体制の整備や財政健全化に努めてきたところでありますが、平成二十六年度決算においては実質単年度収支の四年連続赤字、経常収支比率は一〇一・一パーセントとなるなど、財政の硬直化及び財源不足が深刻化しているところでございます。

特に、基幹財源である市税においては、法人など全国的には業績が向上し、賃金の引上げがなされ、都市部では、法人税、所得税の回復が伝えられているところでございますが、地方ではその効果がいまだ表れておらず、さらには生産年齢人口の減少により、自主財源

の確保が今後ますます厳しくなることが予想されます。

また、「日本創成会議」増田レポートで発表された消滅可能性都市に本市も含まれており、人口減少に歯止めをかけ、活力のある社会を維持するため策定した「人吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに経済成長による取組をもって税収の確保を図りつつ、次の世代に過度な負担を残さないよう行財政改革を積極的に進め、既存事業の徹底した見直しを行い、最重要課題の早期対応と健全財政の維持向上の両立を推進していくことが重要になると存じます。

このため、平成二十八年度予算編成にあたっては、現在策定中の「第五次人吉市総合計画後期基本計画」の着実な実施を軸として、本年度実施している「ゼロベースによる事業見直し」の予算への反映、スクラップアンドビルドの徹底、さらに事業の優先順位の明確化による効率的な財源配分を行う方針でございます。

議員各位を始め市民の皆様におかれましても、この趣旨を御理解いただき、今後の改革改善に特段の御協力、御協賛を賜りますよう心からお願い申し上げます。